

《教育長メッセージ 第33号》

『若葉の頃』

5月、新緑の季節となりました。「若葉の頃」です。一年で一番さわやかで過ごしやすい季節ではないでしょうか。多くの花々や木々の若葉が、これからの希望を語っているような季節です。



思わず外に出て歩きたくなる、緑の香りを感じたくなる季節です。

私は、柿の若葉が大好きです。すでに、4月中旬には、梢に薄い黄緑色小さな葉が広がり始めました。その、赤子の手が開くような厚みのある柔らかそうな葉がやさしく感じられて大好きなのです。

市役所では、ケヤキの若葉が出揃い、色を変え始めました。

5階から、駐車場を囲むように立っているケヤキの木が見渡せるのですが、それぞれ1本1本違うのです。若葉が出始める時期も、その色も、広がり方も、日々、観察していると面白いぐらいにそれぞれに違いがあるのがわかります。それぞれの木に個性があるのがわかるのです。

1本1本の木がそうであるように、1枚1枚の若葉も違います。木のどの梢から生えているのか、日当たり具合がどうなのか、さまざまな要因があるのでしょうか、1枚1枚が違うのです。

若葉、1枚1枚、それぞれ個性があるのです。

さて、1枚1枚それぞれの個性を持った若葉は、夏へと色を変えます。太陽の光を浴びて、雨のしずくを吸って、色を濃くします。徐々に青々と変身するのです。

そのやわらかさは、太陽の厳しい光を照り返すことができるように固くなり、風に揺れてこすれ合う音がサラサラと聞こえるようになります。

遅しくなった若葉は、木陰をつくり、人々を憩わせ、自らの成長の栄養を蓄え、自らを天に押し上げます。

そして、秋、色とりどりに変身して大地に戻るのです。

「若葉の頃」 私は、しなやかに揺れる木々を見上げて、若葉のこれからを想像するのです。

私は、海老名市の1, 867枚の若葉たちの、これからを思うのです。

次回は、第32号に引き続き『ひとりひとりを大切にすること2』として、子どもの支援について、自分の考えを説明してみたいと思います。